

この下が
気になる。

令和7年度 市立熊谷図書館・立正大学博物館 連携展

立正大学を掘ってみた

—熊谷校地内遺跡発掘調査の記録—

会期 令和7年5月27日(火)～7月6日(日)

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階
郷土資料展示室（熊谷市桜木町二丁目33番地2）



例　言

- (1) 本図録は、令和7年度 市立熊谷図書館・立正大学博物館 連携展『立正大学を掘ってみた－熊谷校地内遺跡発掘調査の記録－』のパンフレットとして作成しました。
- (2) 本図録の作成は、岩本篤志（立正大学博物館館長）の指示により、大谷　徹（当館専門職員）が担当しました。
- (3) 本図録の作成にあたり、引用・参考とした文献は巻末に掲げました。
- (4) 本展示の開催にあたり、以下の方々・機関にご協力を賜りました。感謝申し上げます。
熊谷市立熊谷図書館　蔵持俊輔

立正大学を掘ってみた

－熊谷校地内遺跡発掘調査の記録－

キャンパスの下に眠る遺跡

皆さんは立正大学熊谷キャンパスの地面の下に旧石器時代や縄文時代の遺跡があることをご存じですか？

校舎建設に先立ち行われた発掘調査で、大昔の人々が使っていた土器や石器などのいろいろな道具（遺物）や、竪穴住居や墓などの足跡（遺構）が見つかっています。

熊谷校地内遺跡とは？

熊谷駅から森林公園駅行きのバスに乗り、荒川大橋を渡ると眼の前に小高い台地が広がり、その背後には比企丘陵、さらには外秩父山地の山並みを望むことができます。この江南台地の上に立正大学熊谷キャンパスはあります。東京ドーム約8個分の広大な敷地一帯が、大昔の人々が暮らした場所（立正大学熊谷校地内遺跡）だったのです。

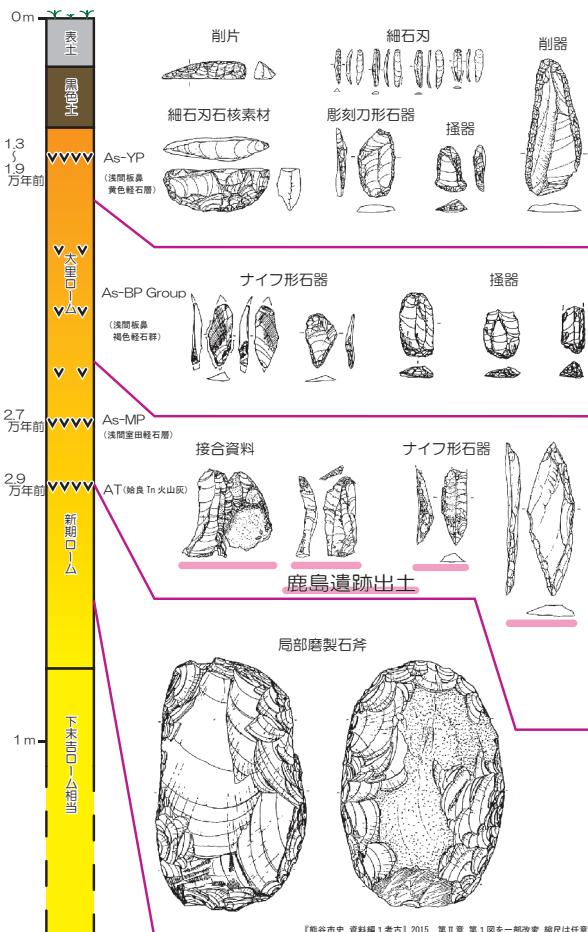
遺跡調査室のあゆみ

昭和41年に開設された熊谷キャンパスでは、校地内の施設整備に伴う発掘調査を行うために昭和53年に「遺跡調査室」が設置され、半世紀近くを経過しています。その間、文化財保護法の規定に基づいて、これまでに50箇所以上の発掘調査が実施され、継続的な調査・研究が行われています。なお、熊谷市の遺跡台帳には、小字名を冠して遺跡範囲の南側を鹿島遺跡、北側を下原遺跡として登録されています。

【発掘調査の成果】

市内最古の人類の足跡 - 旧石器時代 -

旧石器時代の遺物は、平成6年に調査されたX地点（学生寮：ユニデンスA・B館）で約28,000年前の石器が22点出土しています。石器の種類はナイフ形石器3点・楔形石器2点・石核・石刃状の縦長剥片があります。市内で一番古い遺跡で、江南台地における旧石器時代の人々の足跡を留めるものとして重要です。



江南台地における石器群の変遷
(『熊谷市史 資料編1 考古』2015を一部改変)



X地点出土石器

竪穴住居のムラの出現 - 縄文時代早期 -

縄文時代の遺物は、各地点から出土していますが、特に校地内を東に流れる小河川（和田吉野川に流れ込む細い支流）に沿った南側台地上に多く見られます。



R地点第1号住居跡



R地点第1号住居跡出土尖底土器

R地点（2号館）では縄文時代早期前半（約11,000年前）の竪穴住居跡が3軒見つかっています。第1号住居跡は南北11.5m×東西9mの大形のもので、倒卵形の尖底土器^{せんてい}が出土しています。撫糸文系土器を中心^{よりいと}に、条痕^{じょうこん}を施したものや無文土器が混在しています。石器には、打製石斧や植物食料の加工具とされる磨石^{すりいし}やスタンプ形石器、石皿などが見られます。人々が同じ場所で暮らす期間が長期化した、定住生活開始期の様子を知る上で貴重な資料です。



A地点第1号住居跡遺物出土状況

井草II	e	1	(1. e-縄文後)
夏島古段階	e	2, 3, 4, 5, 6	(2-6.e-自然流路)
夏島新段階	R · a · d · e	7, 8, 9, 10, 11	(7-11.R-18d)
押型文	X	12, 13, 14	(12-14.X-H5-55f+1)
田戸下層	A · C	15, 16	(15.A-B91-95f+1, 16.C-62)
野島	A · C	17, 18	(17.A-B91-95f+1, 18.C-62)
鶴ガ島台	C · R	19, 20, 21	(19, 20.R-19d+1, 21.G-62)

校地内遺跡出土縄文土器変遷図（早期を中心に）

空白期と小さなムラ - 古墳時代～奈良時代 -

e地点で見つかった縄文時代中期後半（約4,500年前）の竪穴住居跡が営まれた後、人々の生活した痕跡の希薄な期間（凡そ3,000年）が続きます。本格的な土地利用の再開は古墳時代の終わり、7世紀中頃を待たなければなりません。A地点（調節池）・e地点・z地点（特養老人ホーム）の3箇所から、カマドをもつ竪穴住居跡や竪穴状遺構が検出されています。数軒からなる住居が台地奥部に分散する居住景観が、奈良時代まで続いています。



A地点第1号住居跡出土遺物

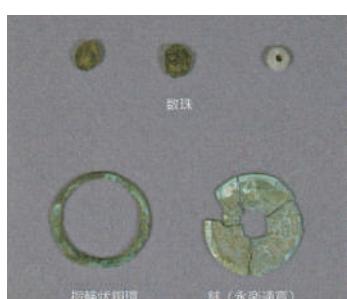
文殊寺と校地内遺跡 - 中・近世 -

熊谷キャンパスの南側には「3人寄れば文殊の知恵」の諺で知られる文殊様をご本尊とする文殊寺があります。寺域は、室町時代の古河公方に仕えていた武将の増田四郎重富の館跡という伝承が残され、現在も北側と西側の一部に外堀と土塁が残っています。

文殊寺に隣接するH地点からは、長軸1.1m、短軸0.6mの不整長方形の土坑墓が見つかり、数珠玉3点、指輪状銅環1点、銭貨（永楽通寶）1点、人歯・人骨片が出土しました。また、X地点から検出された溝跡では和鏡・かわらけ・天目茶碗などの中世の遺物が出土し、増田氏館跡との関連性がうかがわれます。



H地点土坑墓遺物出土状況



H地点土坑墓出土遺物

教育の場としての校地内遺跡

校地内遺跡の発掘調査は、考古学専攻生を中心に行なられてきました。教室の授業だけでは体験できない考古学の世界がそこにあります。発掘調査が終了すると今度は図面や遺物の整理作業、報告書の作成が待っています。こうした経験が、考古学を学ぶ上での基本的な方法や技術を習得するための教育の場でもありました。



Z地点 調査風景（平成20年9月）

しかし、開設から40年が経ち、施設の老朽化が進んでいた熊谷キャンパスの再開発事業が、平成19年度から始まり、その事前調査として発掘調査は増加しましたが、それが一段落した平成20年以降は、平成25年を最後に本格的な発掘調査は行われていません。

とりわけ新型コロナウイルスによるパンデミック以後は、発掘調査を体験する場として、その重要性を増しています。

開かれた大学博物館を目指して！

現在、発掘調査の出土品の一部は熊谷キャンパス内の立正大学博物館で常設展示され、いつでも見学することができます。

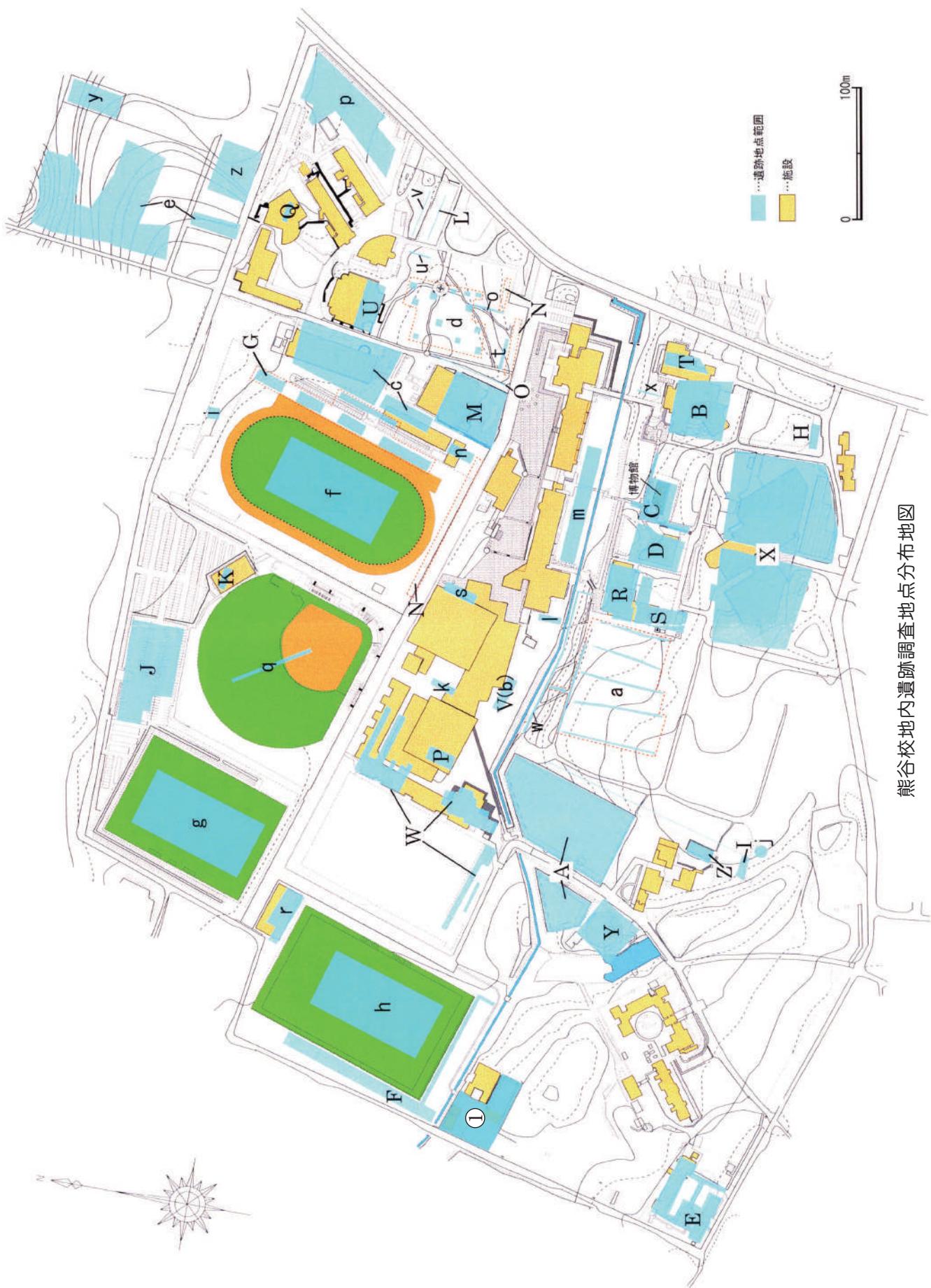
博物館を飛び出し、市立熊谷図書館との連携展示を通じて、校地内遺跡の調査研究成果の一端を市民の皆さんに紹介してきました。

この地域の歴史について考古資料だけでなく、文献史料なども参考にしながら、より具体的なイメージを描いていくことが、これからの大変な課題といえます。

参考文献

- 『遺跡調査室年報 I ~ XIV』 1979~2014年
(立正大学熊谷校地遺跡調査室)
- 『立正大学熊谷キャンパスの遺跡－熊谷校地内遺跡調査30年のあゆみ－』 立正大学博物館 第6回企画展
2009年 (立正大学博物館)
- 『熊谷を彩る発掘出土品展～くまがや発掘60周年～』
2021年 (熊谷市立熊谷図書館)
- 『くまがやの文化財と文化遺産』
2025年 (熊谷市立熊谷図書館)

熊谷校地内遺跡調査地点分布地図



熊谷校地内遺跡既調査地点一覧表

地点名	検出遺構	遺 物	所載号	調査年次
A 地点	住居跡2軒、炭窯1基、土坑2基	縄文土器片8点、土師器、須恵器	年報 I	昭和53年
B 地点	土坑26基		年報 I	昭和53年
C 地点	土坑90基	縄文土器片16点、土師器片5点、須恵器片3点	年報 II	昭和53年
D 地点	遺構なし	石器15点	年報 II	昭和55年
E 地点	土坑25基、溝状遺構1条		年報 II	昭和55年
F 地点	土坑6基、溝状遺構4条	磁器片2点、スタンプ形石器1点	年報 III	昭和55年
G 地点	遺構なし		年報 III	昭和55年
H 地点	土坑墓1基	人骨片、歯、錢貨(永樂通寶)1枚、数珠玉3点、指輪状銅環1点	年報 III	昭和55年
I 地点	遺構なし		年報 III	昭和56~58年
J 地点	遺構なし		年報 IV	昭和56~58年
K 地点	遺構なし		年報 IV	昭和56~58年
L 地点	遺構なし		年報 IV	昭和56~58年
M 地点	遺構なし		年報 IV	昭和56~58年
N 地点	遺構なし		年報 IV	昭和56~58年
O 地点	遺構なし		年報 IV	昭和56~58年
P 地点	遺構なし	槍先形尖頭器1点(表採)	年報 IV	昭和58年
Q 地点	遺構なし		年報 IV	昭和62年
R 地点	住居跡3軒、土坑22基	縄文土器片230点、石器19点	年報 V	昭和62年
S 地点	遺構なし	スタンプ形石器1点	年報 V	昭和63年
T 地点	土坑6基		年報 VI	平成4年
U 地点	遺構なし		年報 VI	平成4年
V(b)地点	近代水田跡		年報 VI	平成4年
W 地点	(A)溝状遺構1条、(B)土坑2基、(C)溝状遺構5条、土坑4基、(D)井戸跡2基、溝状遺構7条	曲物、金銅製飾金具、石鎚、陶磁器、土師器、須恵器、瓦質土器、円筒埴輪片	年報 VI	平成4~6年
X 地点	旧石器時代ブロック1箇所、土坑20基、溝状遺構3条	ナイフ形石器3点、楔形石器1点、スパール1点、剥片、有孔磨製石鎚1点、和鏡1点、陶磁器片	年報 VII	平成6年
Y 地点	遺構なし	縄文土器片65点、石器・石類70点、土師器片5点、板碑片1点	年報 VIII	平成7年
Z 地点	遺構なし	石器片1点、陶器片1点	年報 VIII	平成7年
a 地点	遺構範囲15箇所	土器片184点、石器類455点	年報 IX	平成8年
c 地点	遺構なし		年報 IX	平成8年
d 地点	土坑3基	土器片44点、石器類15点	年報 IX	平成8年
e 地点	自然流路1条、住居跡2軒、堅穴状遺構2軒、集石1箇所、土坑27基、ピット群1箇所、柵状遺構1条	縄文土器片72点、石器16点、土師器片7点	年報 X	平成10年
f 地点	遺構なし		年報 XI	平成16年
g 地点	遺構なし		年報 XI	平成16年
h 地点	遺構なし		年報 XI	平成16年
i 地点	遺構なし		年報 XI	平成16年
j 地点	遺構なし		年報 XI	平成17年
k 地点	遺構なし		年報 XI	平成18年
l 地点	遺構なし		年報 XI	平成18年
m 地点	遺構なし		年報 XI	平成18年
n 地点	遺構なし		年報 XI	平成18年
o 地点	遺構なし		年報 XI	平成18年
p 地点	土坑3基		年報 XI	平成18年
q 地点	遺構なし		年報 XI	平成18年
r 地点	土坑3基、柱穴10基		年報 XII	平成19年
s 地点	土坑4基		年報 XII	平成19年
t 地点	土坑1基		年報 XII	平成19年
u 地点	遺構なし		年報 XIII	平成20年
v 地点	土坑1基	縄文土器片7点	年報 XIII	平成20年
w 地点	遺構なし	青磁片3点	年報 XIII	平成20年
x 地点	遺構なし		年報 XIII	平成20年
y 地点	遺構なし	縄文土器片、石器4点、板碑片1点	年報 XIII	平成20年
z 地点	住居跡1軒、堅穴状遺構1軒、土坑5基	土器片、土師器10点、須恵器2点	年報 XIII	平成20年
①地点	遺構なし		年報 XIV	平成25年

令和7年度
市立熊谷図書館・立正大学博物館連携展

立正大学を掘ってみた

— 熊谷校地内遺跡発掘調査の記録 —

編集・発行 立正大学博物館
発 行 日 令和7年5月27日
〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700
TEL 048-536-6150 / FAX 048-536-6170
E-mail : museum@ris.ac.jp
URL : <https://www.ris.ac.jp/museum/>
印 刷 ビーンネット